



UD絵本コンクール2019 UD研究賞「ゆび物語」

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：500千円

UD絵本コンクール2019およびUD絵本WS

目的・趣旨

UD絵本コンクールやUD絵本ワークショップの開催により、すべての人が共に生きられる社会への関心を高める。さらに絵本の可能性を追求する。本年度は、コンクール開催10周年にあたるため、コンクール10年間の歩みをたどる目録作成を行う。

日時・場所

2019年6月3日から2020年3月25日
静岡文化芸術大学（ギャラリー、総合演習室、442教室）および浜松市立図書館など

体制

（実施代表者）	文化政策学部	文化政策学科	教授	林 左和子
（実施責任者）	デザイン学部	デザイン学科	教授	的場 ひろし
	文化政策学部	文化政策学科	准教授	小杉 大輔
	デザイン学部	デザイン学科	准教授	かわ こうせい

共催・後援等

内容

UD絵本WSは、浜松市立図書館14館、磐田市立図書館および静岡県立中央図書館で合計16回実施した。参加者は151名であった。また、浜松視覚特別支援学校の先生方を対象としたワークショップも開催した。
UD絵本コンクール2019の応募作品は、子ども部門12点、高校生部門7点、一般部門9点であった。その中から、UD研究賞1点、審査委員長特別賞2点（同一人の作品）、子ども部門優秀賞1点、佳作2点、高校生部門優秀賞1点、佳作1点、一般部門優秀賞2点、佳作1点および学生大賞1点が選出された。応募作品は11月16日から21日に本学ギャラリーで展示、143名の来場者があった。浜松市役所および大崎ゲートシティでの展示会は中止となった。



結果・成果

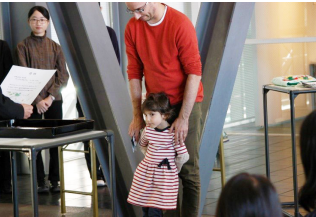
UD絵本WSでは、未就学児から高齢者まで幅広い年代の方が、学生のサポートを受けてUD絵本制作を楽しんでいた。WS参加者のうち7人がUD絵本コンクール2019に応募してくれた（子ども部門6点、高校生部門1点）。子ども部門優秀賞1点と佳作1点は参加者の作品である。また、夏に本学で行われたアカデミックチャレンジ参加者4人が高校生部門に応募、優秀賞と佳作を受賞した。11月の展示会では、今回の応募作品のほか、過去の実賞作品やパンフレットを展示し、10年のあゆみをたどれるようにした。宇城市立中央図書館が10年連続応募してくれている他、4年連続など繰り返しの応募者もみられる。応募を目標に作品を制作してこられた方もいて、少しずつではあるが本コンクールが定着してきた。展示会には視覚に障害のある方も来場され、子どもたちの工夫をこらした作品を楽しんでおられた。UD研究賞受賞の「ゆび物語」は聴覚特別支援学校の先生方に見ていただき、感想や要望をうかがった。こういった感想や要望は審査委員のコメントとともに作者の方に伝えている。制作者と必要としている人をつなぐことで、UD絵本の発展することを期待している。



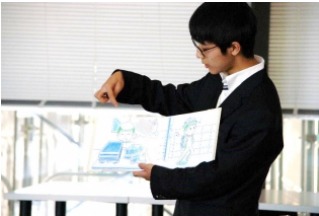
子ども部門佳作受賞者



一般部門優秀賞受賞者



表彰式で審査委員長特別賞受賞者への表彰状授与場面



高校生部門優秀賞受賞者の作品紹介



学生大賞受賞者による作品紹介